

「人生100年時代の結婚と家族に関する研究会(第9回)」資料  
「介護する息子」とその増加をいかに見るか

平山 亮

(大阪市立大学大学院文学研究科)

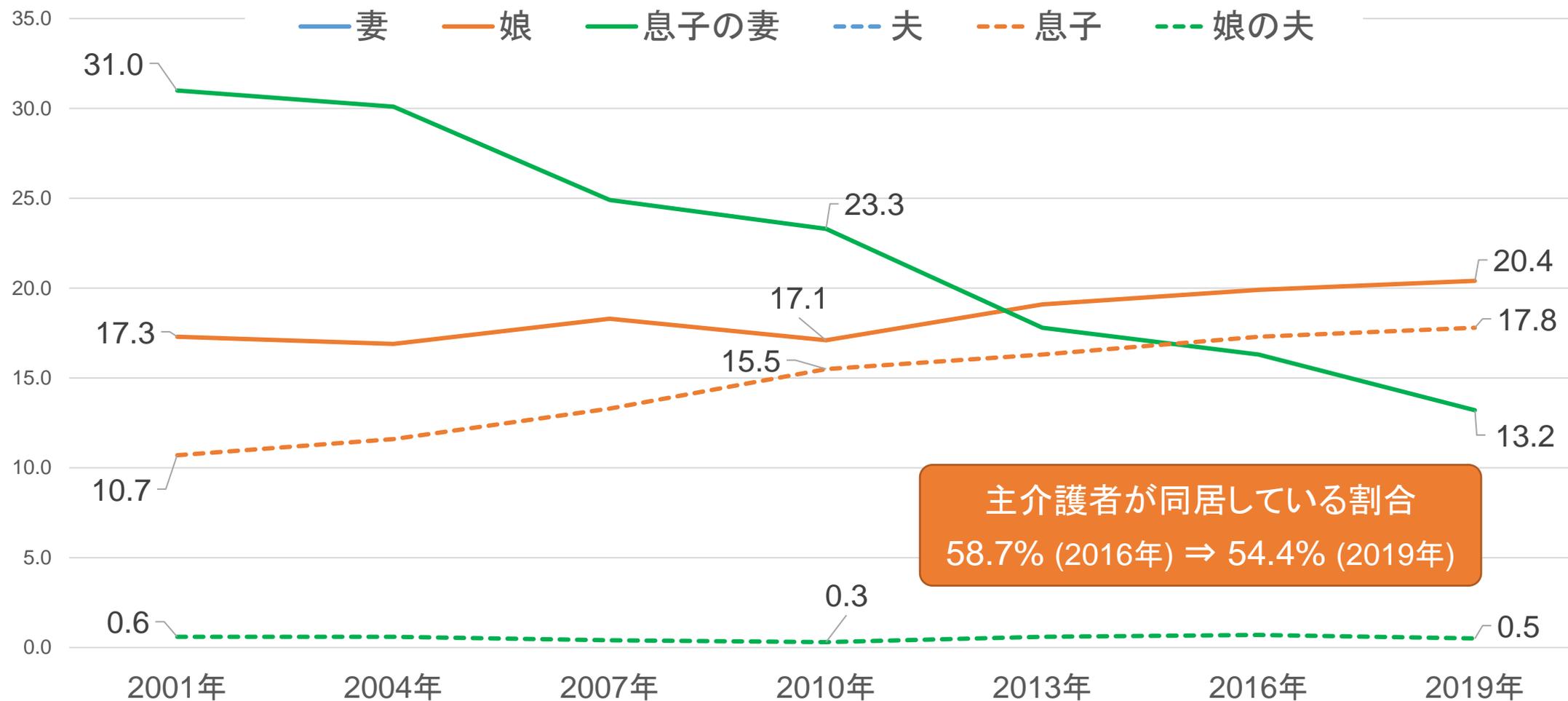
# 本日のお話

- 男性による親の介護を中心に、親子や夫婦のあり方が(どこまで)変わったと言えるかを考える
  - わたし自身の「介護する息子」の研究(2010年から現在)をもとに
- おもに2つの問いから
  - 「働きざかり」の年齢で親の介護に直面する男性が増えているなかで親の介護に対する男性の構え・備えは(どれくらい)できているのか
  - 男性も女性も自分自身で親を看るようになっていく、と言われるが、それは家庭における高齢者の世話の負担が、男女/夫婦で等しくなりつつあることを意味するのか

# 「介護する息子」のプロファイル

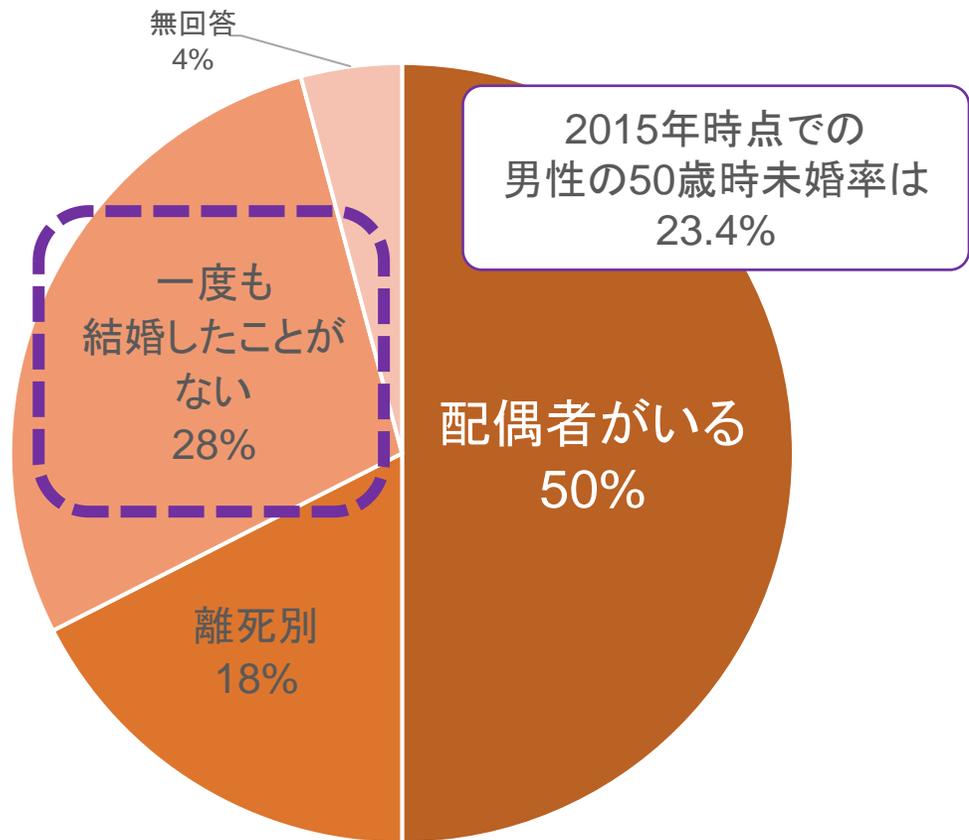
息子に主に介護されている要介護高齢者はどれくらいいるのか？  
どんな男性が「介護する息子」になっているのか？

# 同居の主たる介護者：各続柄の割合(%)の推移 (子世代のみ)

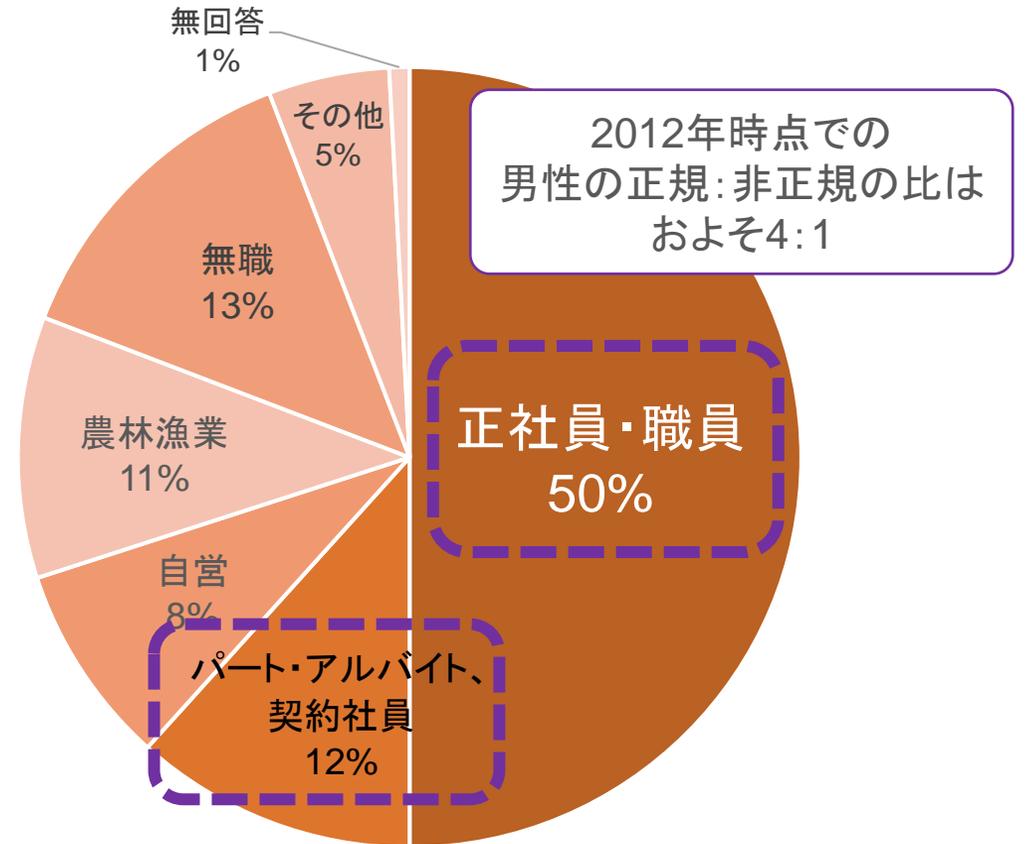


# 介護する息子の婚姻・就業状況

## (介護中の)婚姻状況

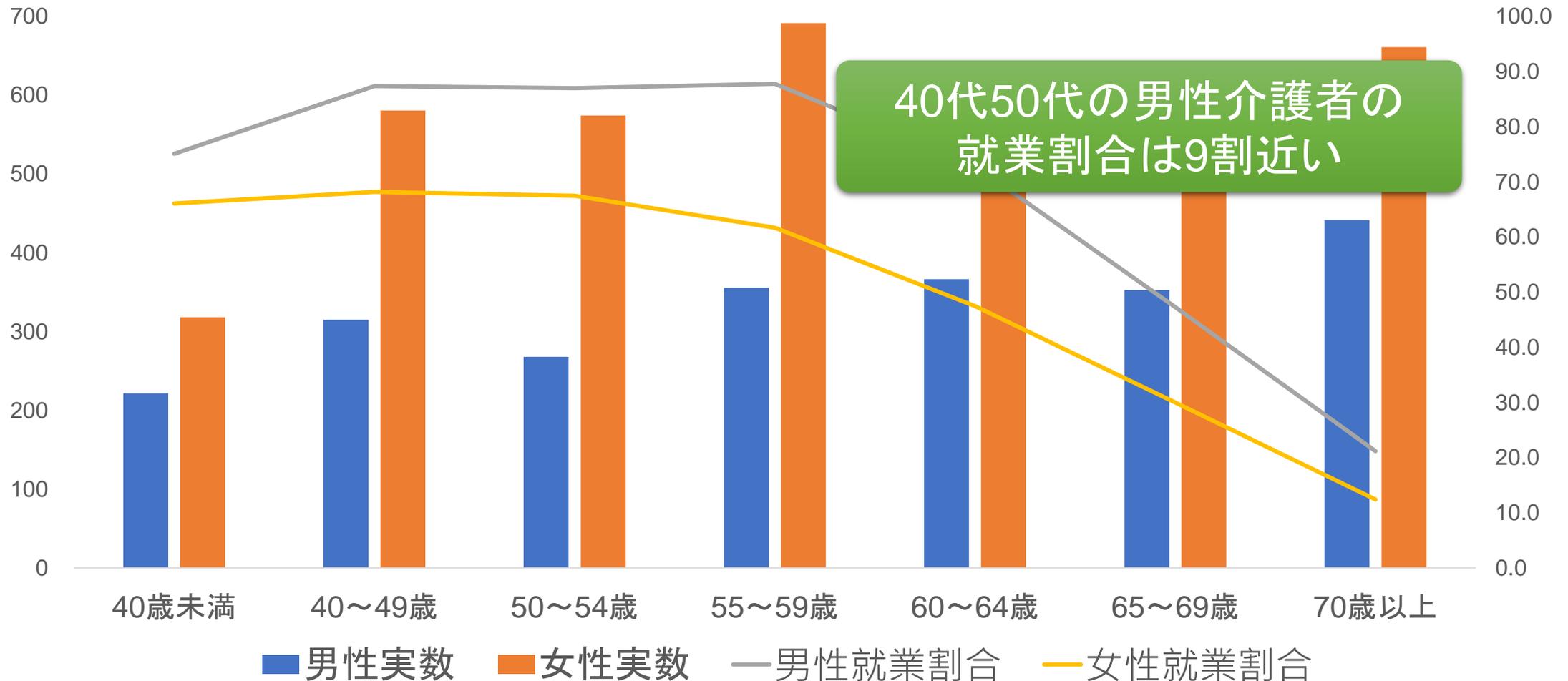


## 介護が始まる前の就業状況



全国国民健康保険診療施設協議会『家族介護者の実態と支援方策に関する調査研究事業』(2012年)をもとに作成  
※ 全1,130ケース中120ケースが男性による老親介護のケース

# 家族を介護している者の数(千人)と その就業割合(%):年齢層別



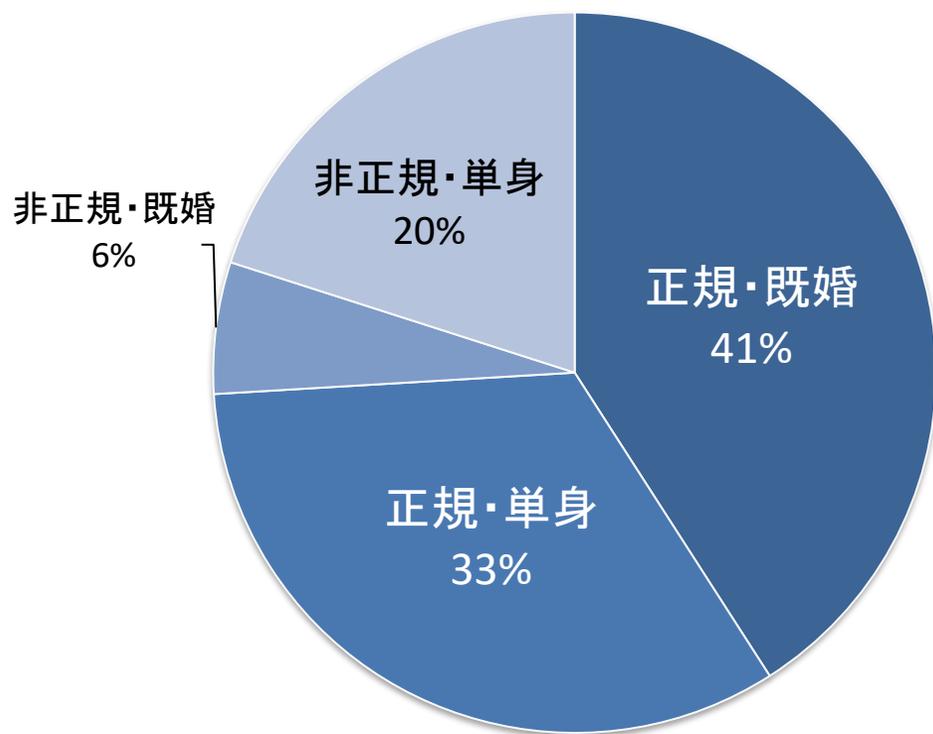
『平成29年就業構造基本調査:結果の概要』(総務省統計局より2018年7月13日公開)をもとに作成

# 被雇用者の介護レディネスに関する インターネット調査 (Hirayama & Wakui 2018; 平山 2020)

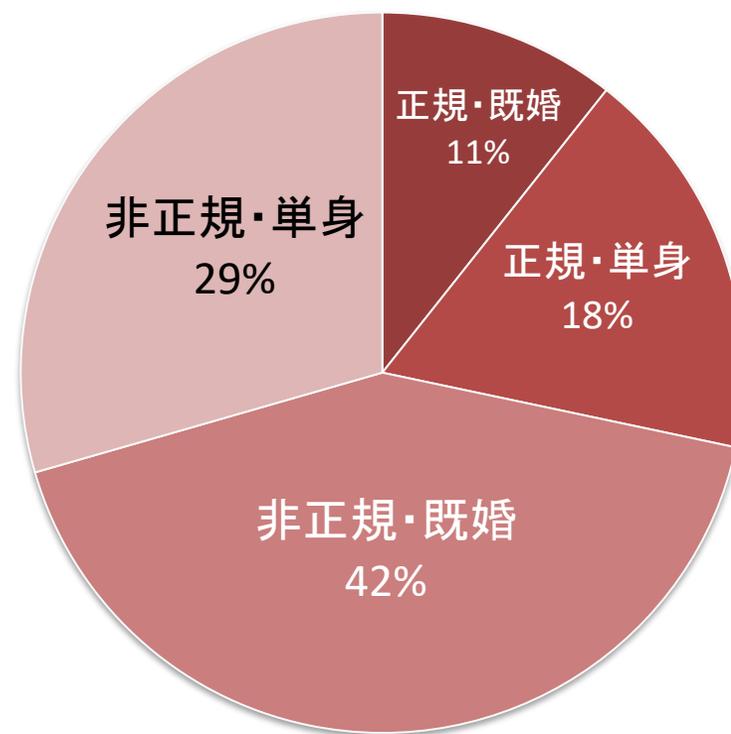
男性は親の介護への構え・備えがどれだけできているか  
正規雇用・非正規雇用による違いはあるのか

## (参考) 調査参加者の属性(雇用×婚姻)

- 親が65歳以上で親(結婚している場合は義理の親も)の介護未経験の被雇用者
- 参加者の平均年齢は46.3歳

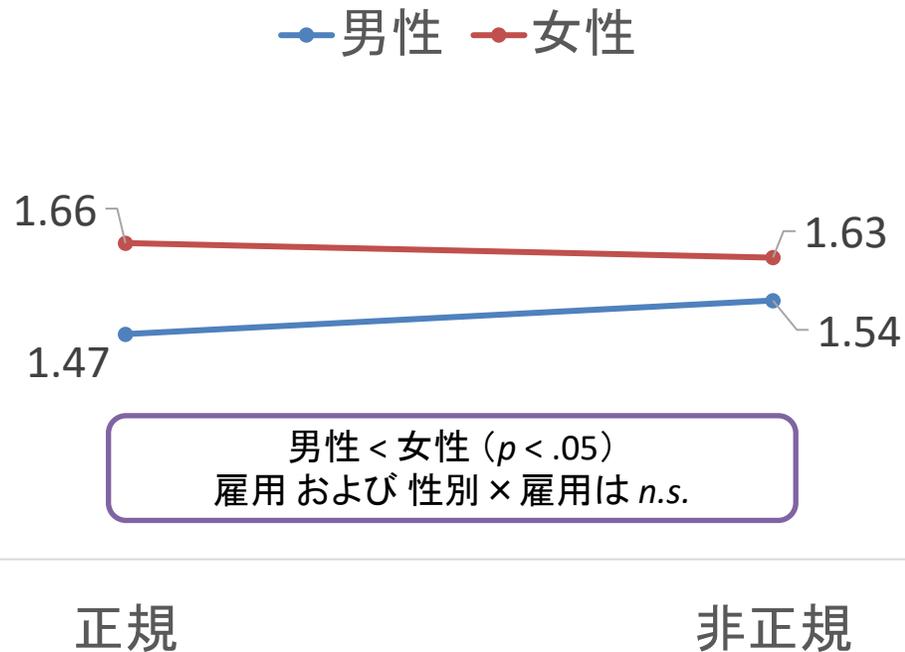
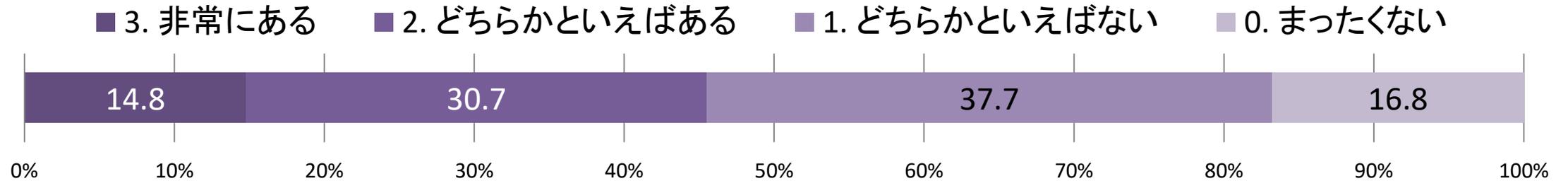


男性(474名)



女性(526名)

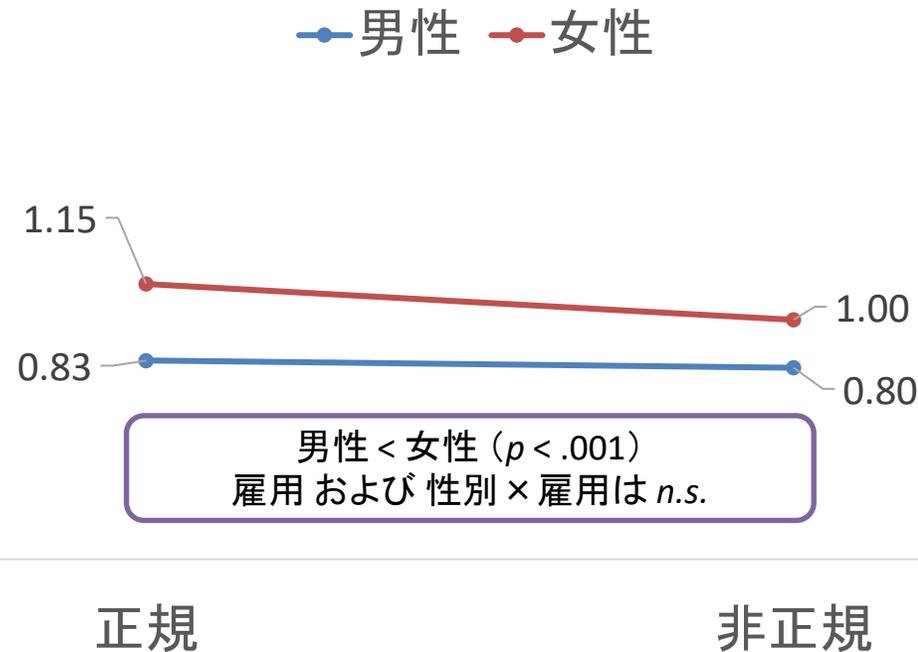
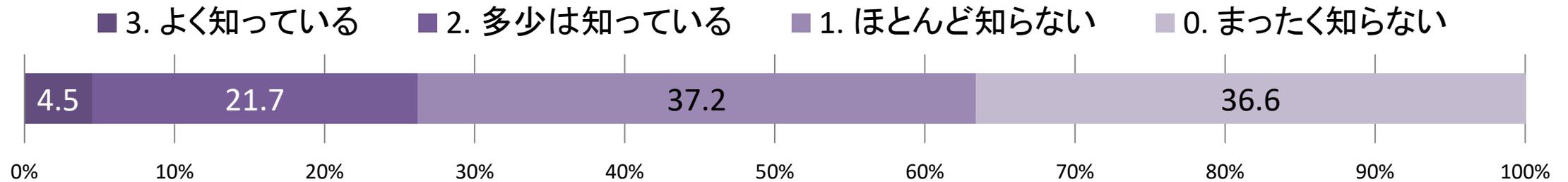
# 親の介護を自分がすることになる可能性は どれくらいあると思うか？



- 男性は女性に比べ、自分がすることになると思っていない
- 正規か非正規かで差は見られない
- 性別による差は、正規でも非正規でも特に変わるわけではない

男性 < 女性 ( $p < .05$ )  
雇用 および 性別 × 雇用は *n.s.*

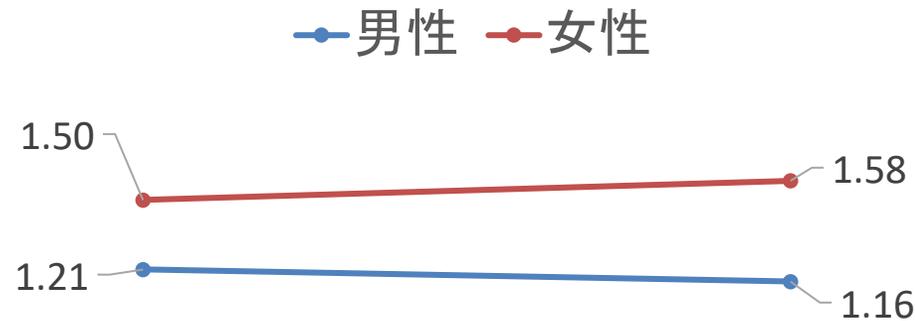
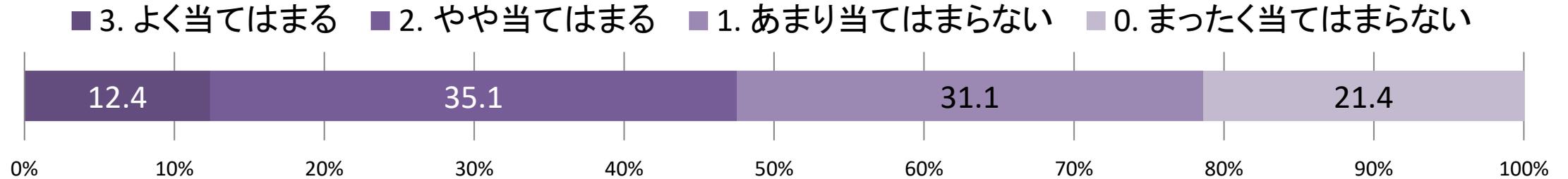
# 介護保険を利用してサービスを使うための手続きを どれくらい知っているか？



- 男性は女性に比べ、介護保険サービスに関する知識が少ない  
(ただし女性が特別多いともいえない)
- 正規か非正規かで差は見られない
- 性別による差は、正規でも非正規でも特に変わるわけではない

男性 < 女性 ( $p < .001$ )  
雇用 および 性別 × 雇用は *n.s.*

# 親の介護など家族のことを相談できる人が職場にいる？



- 男性は女性に比べ、職場のなかに相談できそうな人がいない
- 正規か非正規かで差は見られない
- 性別による差は、正規でも非正規でも特に変わるわけではない

男性 < 女性 ( $p < .001$ )  
 雇用 および 性別 × 雇用は *n.s.*

正規

非正規

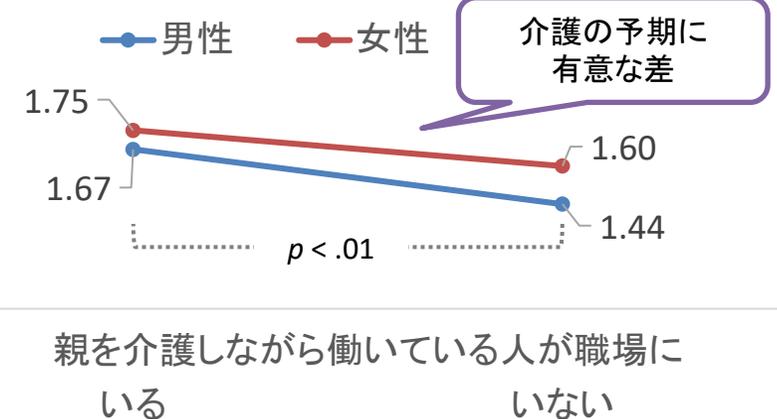
# 被雇用者を対象とした介護レディネス調査 結果のまとめ

- 高齢者にあたる親がおり、その意味で親の介護が目前に迫っている場合でも男性は女性に比べ、自分が介護することになる可能性を意識していない
- 介護に対処するための資源(介護保険サービスの知識や職場内で相談できそうな相手)も乏しい ※正規でも非正規でもかわらない

何の準備もできていないまま親の介護が始まる可能性が(女性よりも)高い

- 職場内にロールモデルがいると異なる可能性

介護離職の高リスク層(女性・非正規)はレディネスが低いとは言えない(介護する可能性を予期、知識や相談相手も)情報提供や同僚・上司のサポートだけでは離職は防げないのでは？



# 「介護する息子」の夫婦関係

家庭における高齢者の世話のあり方は(どこまで)変わったのか  
フィールド調査をもとに考える

# そもそも「介護する息子」とは？

- 息子が親の**介護**を主にしている場合
- 介護とは？ 日常生活動作に不自由が生じている人への手助け
  - 要介護度
  - 食事、着替え、移動、排泄の手伝い…「介護をしている」と認められやすい

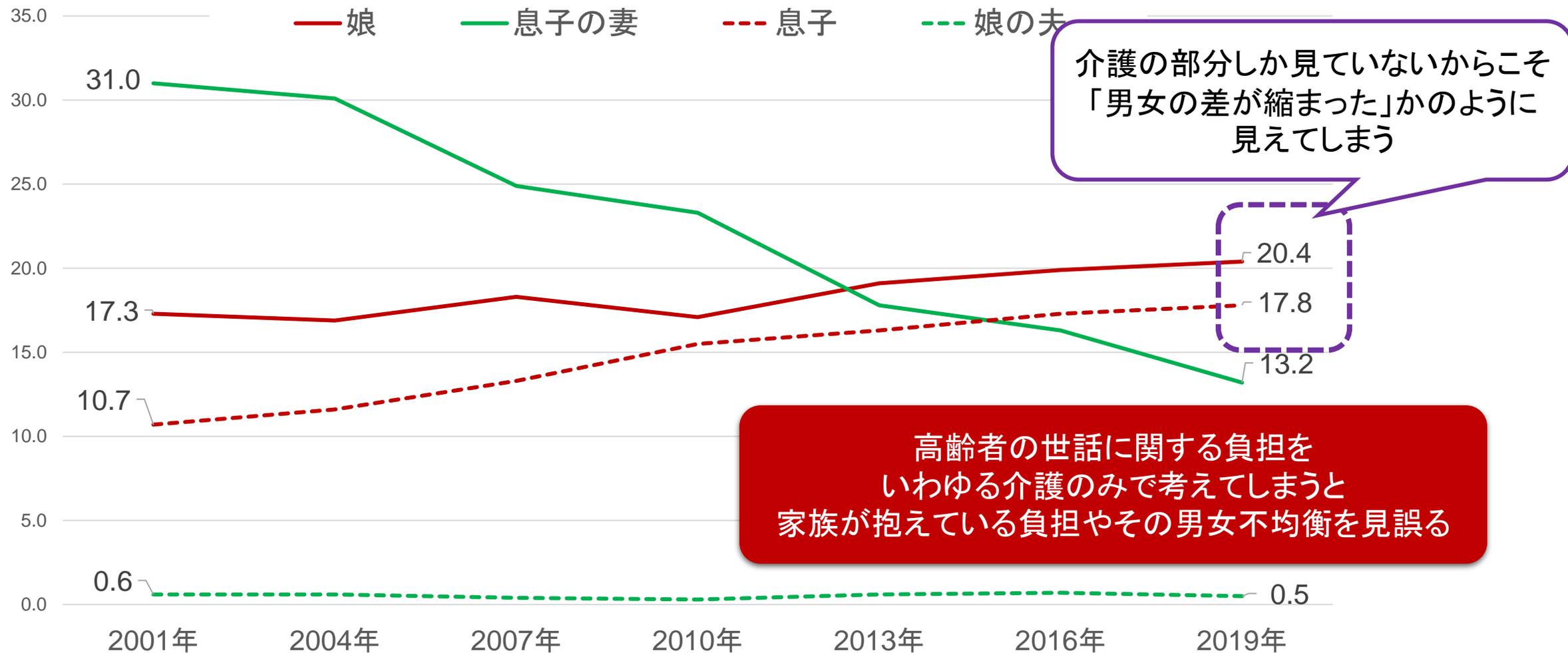
親が日常生活動作に支障をきたし始めてから必要となった手助けを  
家族のなかで息子が最も多く行っている(とされる)場合

息子が結婚している場合は 息子の妻 < 息子

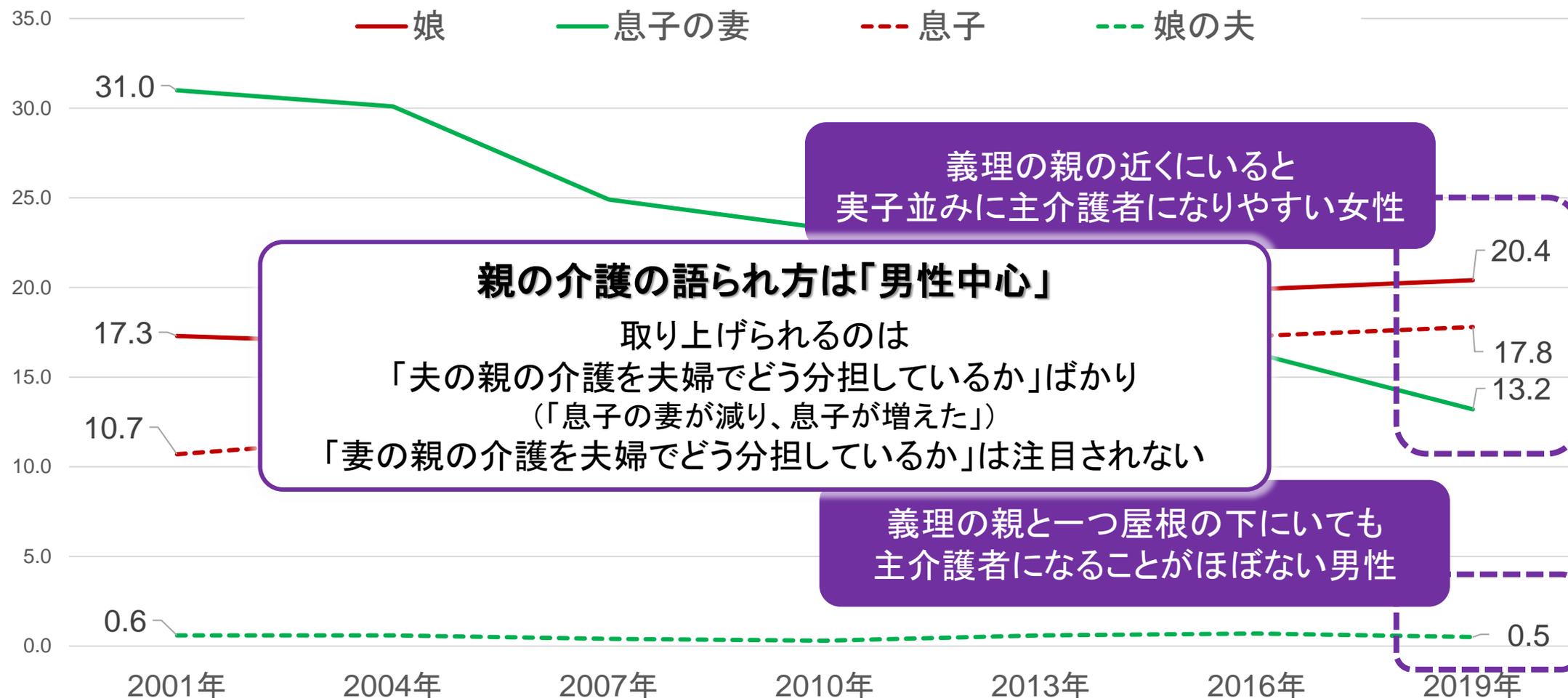
# 「介護の基礎」における息子のアドバンテージ

- 「介護の基礎」=それがなければ介護できない・続けられない(平山 2014)
  - 介護の前提となる家事
  - 介護者の生活の維持に必要な家事
- 「基礎」を配偶者に「外注」できるほぼ唯一の介護者が(既婚の)息子
  - 「介護する娘」は「基礎」から自分で
- 既婚の「介護する息子」と既婚の「介護する娘」の非対称性
- 高齢者の世話の負担にカウントされない「基礎」
  - 「基礎」を一手に担う妻さえも「世話をしているのは夫」「私はただの手伝い」
- 「基礎」は「ただの手伝い」なのか？

# 「男女ともに介護を担う時代になった」のか？



# 「男女ともに介護を担う時代になった」のか？



# 「介護する息子」への見方から見えてくるもの

- 無自覚のうちに、男性に「下駄を履かせる」見方をしていないか
  - 妻に頼りきりの「介護の基礎」を、家庭での高齢者の世話に含めない
  - 「娘の夫」としての男性を考慮せずに「家族の変化」「男性の変化」を語る
- 「介護の基礎」や妻の親への介護とその分担を含めて現状を見直せば「いかにわれわれがジェンダー不均衡を見ようとしていないか」が見えてくる
- 「データにもとづいて施策を検討する」は大切だがデータ以上に検討が必要なのは、そのデータを見る視点ではないか
  - 誰を中心にそのデータを見ているか

## 補足資料①

「男性は助けを求められないので、介護で孤立しやすい」を考える

# 男性の介護者は女性よりも孤立しやすい？

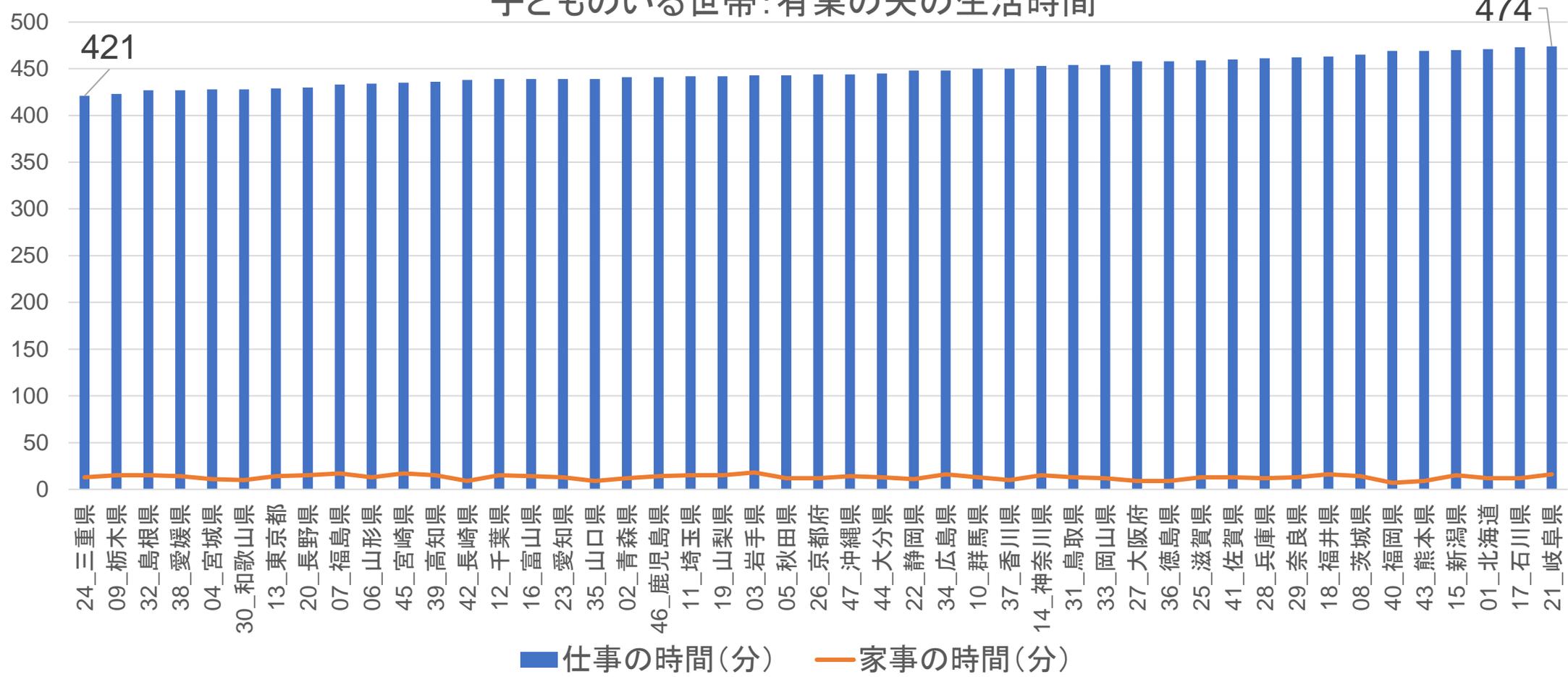
- 老年学における家族介護者研究のメタ分析によれば、サポートの利用における男性介護者と女性介護者の差はない(Pinquart & Sörensen 2006)
- 「ケア＝女性の責任」とする社会での「男ゆえの孤立しにくさ」
  - 「めずらしい」がゆえの周囲からの注目
  - 孤立していることがわかるのは孤立していないからこそ、という逆説
- 「ケア＝女性の責任」とする社会での「女ゆえの孤立しやすさ」
  - ケアに携わっているだけでは特に注意を向けられない(「ふつうすぎる」)
  - ヘルプを求めること＝「女“なのに”できない」を表明すること
- 男性が実際に「助けを求められない男性」になるかどうかは文脈しだい(Addis & Mahalik 2003)

## 補足資料②

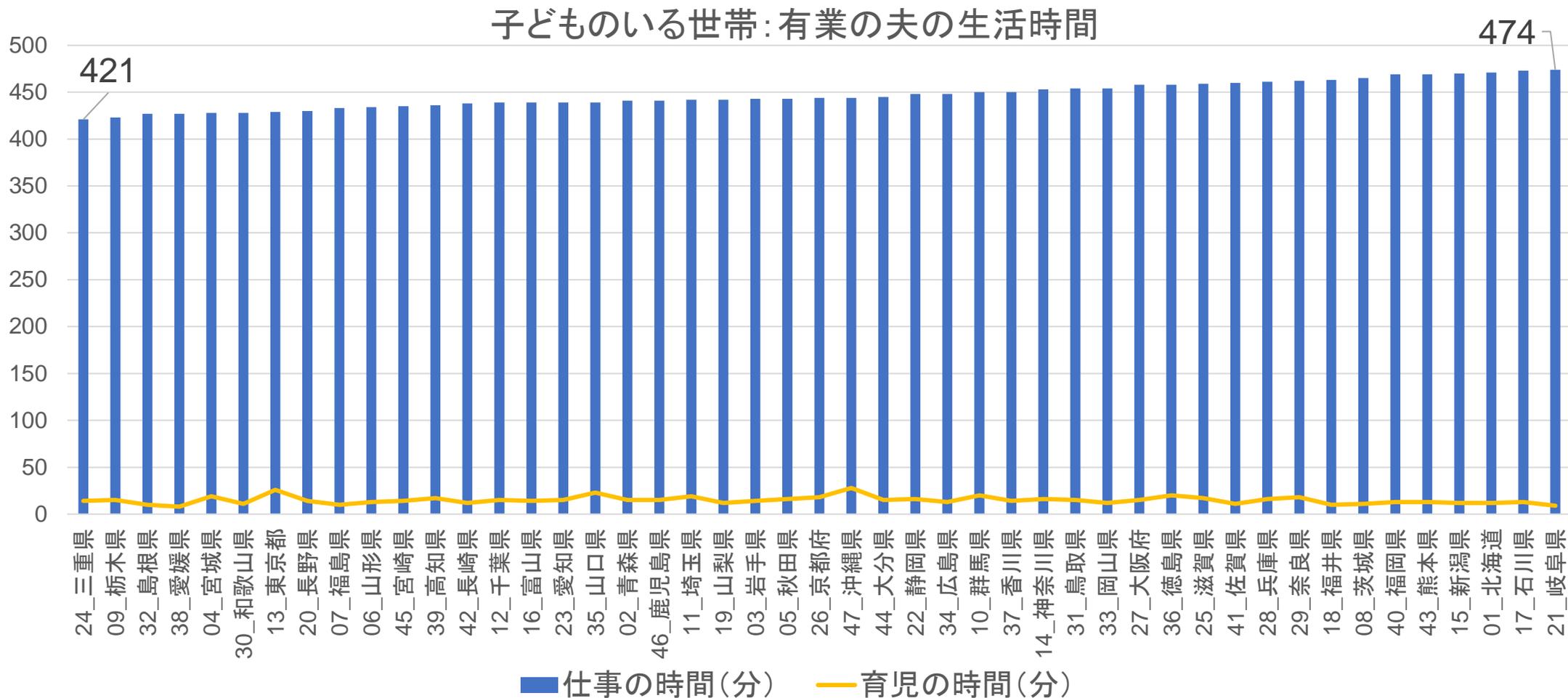
「就業時間の長さが男性の家事育児への関与を妨げる」を考える

# 仕事の時間が男性から家事の時間を奪っている？

子どものいる世帯：有業の夫の生活時間



# 仕事の時間が男性から育児の時間を奪っている？



# 「構造制約説」は(どこまで)適切か

- 男性の生活において就業の時間と家事育児の時間はほとんど連動していない
- 「(家事育児に携われないほど)時間がない」はずなのに男性の余暇時間は長い(特に休日)

日曜日における趣味・娯楽・教養のための  
インターネット利用時間

	男性	女性
20代	2時間04分	54分
30代	1時間35分	28分
40代	1時間22分	37分

『2015年国民生活時間調査報告書』(NHK放送文化研究所)

- 長時間労働を前提とする就業体制の見直し自体は必要だが、構造的な時間制約という要因だけで男性の家事育児に費やす時間の少なさを説明するのは適切とは言えないのではないか

# ケアを外注できればそれでよいのか

- 家事や育児のサービスを利用しやすくすることで家庭内労働の負担とその男女不均衡を解決？
- サービス利用のための「調整」の負担
  - 外注先の選定と依頼・交渉のプロセス
  - 何をどこまでどのようにやってもらうかの判断と言語化
- 子どもなど「依存的存在」のための利用はさらに負担が大きい
  - 切れ目のないケアのための「調整」(例えば専門職間の「申し送り」のような)
  - 受け手への日常的な観察とそれにもとづく知識が必要
- 「調整」の責任は女性に偏っている(山根・平山 2017-2020)
- 女性のケアラーと家族外のケアワーカーによる分担にならないか



## 参考文献

- Addis, Michael E., and James R. Mahalik, 2003, “Men, Masculinity, and the Contexts of Help-Seeking,” *American Psychologist*, 58(1): 5-14.
- Hirayama, Ryo, and Tomoko Wakui, 2018, “Unmanageable Responsibility? Gendered Perceptions of Parent Care Among Adult Children at Working Age in Japan.” Presented at Gerontological Society of America 2018 Annual Scientific Meeting.
- Pinguart, Martin, and Silvia Sörensen, 2006, “Gender Differences in Caregiver Stressors, Social Resources, and Health: An Updated Meta-Analysis,” *Journals of Gerontology: Psychological Sciences*, 61(1): P33-P45.
- 平山亮, 2014, 『迫りくる「息子介護」の時代—28人の現場から』光文社新書.
- 平山亮, 2021, 「男性介護者がめずらしくない時代に—介護への構え・備えと『ケアの社会化』」落合恵美子編著『いま社会政策に何ができるか3 どうする日本の家族政策』ミネルヴァ書房, 178-192.
- 山根純佳・平山亮, 2017-2020, 「『名もなき家事』の、その先へ—“気づき・思案し・調整する”労働のジェンダー不均衡」『けいそうビブリオフィル』.